

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科
令和２年度農業土木コース教育評議会 記録

場 所：弘前大学農学生命科学部 203 多目的室

日 時：令和３年３月２０日（土） １５：３０～１７：００

出席者：〔学外委員〕 櫻田(隆), 桜田(清), 山田, 小中, 中村, 小笠原, 井ノ上

〔プログラム教員〕 泉, 遠藤, 加藤, 加藤(千), 佐々木, 鄒, 藤崎, 丸居, 森, 森谷

進行：藤崎 記録：丸居

前回の記録の確認

資料の通り承認された。

議 事

（１）令和３年，４年度教育評議員について

資料１－１に基づき、教育評議会委員について桜田清治委員、山田育夫委員、泉完委員の退任について説明があり、内山俊二委員の就任が承認された。

（２）学生の学習目標達成状況

資料２－１に基づき、卒業予定学生の学習・教育到達目標、単位習得状況について説明があり農業土木コースの修了要件を満たしていることを確認した。(B) の点数が低い学生が多いため、専門科目の基礎的なところに重点をおいた教育をすべきではないかと意見があった。

資料２－２に基づき、１年生から３年生までの学生の面談結果および就学状況について説明があった。今年度は、メディア授業の影響が大きく１年生同士のコミュニケーション不足ややる気の維持の難しさ、メディア授業による教育効果の低下について説明があった。面談記録にあった「履修ミス」について質問があり、メディア授業の影響で発生したことと考えられるが、担任面談等でフォローしていると説明があった。

（３）教育褒賞

資料３に基づき、教育褒章選考委員会で 2019 年度後期分と 2020 年度前期分を対象に選出した結果およびメディア授業に伴う採点方法の変更について説明があり、今年度は加藤千尋先生の土壌物理学が褒章の対象になることが了承された。どのような工夫を行ったか質問があり、要点をまとめたクイズ形式の小テストなどを行ったとの説明があった。

（４）就職状況

資料４に基づき、卒業予定者の就職状況について説明があった。

（５）その他

資料５－１に基づき、認定プログラムの年次報告書について報告があった。

資料５－２に基づき、企業等へのアンケートについて説明があり、自由意見における CAD、電気・機械設備に関する記述について現場のニーズと大学でできることについて意見交換を行った。以下に主な

意見をまとめる。

- ・農業土木・土木分野では CAD は必ず必要な知識で、官公庁では研修等で身に着けるプログラムがある一方で、コンサルでは即戦力として CAD の利用が求められるのでニーズは高い。大学では、CAD のソフトウェアに触れることが望ましいが、横断面図や縮尺といった一般的な製図の技能、レイヤーの構成などの CAD の概念を教授できればよいのではないかな。

- ・電気・機械設備の知識については、ゲートやポンプの管理の際、小水力発電、発電機等の設計や検討の際に必要な。大学では、電気知識の基礎が求められていて、水管理に電気の資格が必要であることや電気設備の存在について教えることでよいのではないかな。

その他全体を通した質問・意見

- ・入試の違い(A0 と前後期)による学生の成績について質問があり、明確な差は確認されていないと返答され、1 年次の成績がその後の成績を左右することが統計的に証明されていることが紹介された。

- ・JABEE コースを選択する学生が多いため、修了生の技術士取得状況について、アンケートで把握することに期待する。

- ・団体から離れた際に、個人として評価されることになるため、どの業種でも資格が求められる時代であることを大学から教えていくべきである。

最後に、退任する委員からご挨拶を頂き、全員で謝意を表した。